

(2) 美容文化コース(美容師養成施設)

教科科目	科目の特徴	科目の目標
芸術と文明	世界の歴史において各地域で展開した東西諸文明と、これを代表するすぐれた芸術作品～絵画・彫刻・建築・詩・小説・演劇～などをとりあげ、人類文化を考察する。	古今東西の芸術作品を、それらが生み出された諸文明の中で捉え、歴史的・総合的に理解する。
情報処理演習Ⅰ	コンピューターを常識として活用する能力「コンピューター・リテラシー」を養うことを目的とする。パーソナル・コンピューター及び情報機器・媒体についての知識を学び、その操作・活用ができるように授業を進める。	文章デザイン試験3級合格を目指す。
公衆衛生学	公衆衛生領域での正しい知識と情報を学ぶ必要がある。この講義では、衛生環境について、公衆衛生と環境衛生、感染症、衛生管理技術について系統的に講義する。	公衆衛生の正しい知識を身につける。
皮膚解剖生理学	美容に携わるものは皮膚の構造とその生理機能を理解しておかなければならない。解剖生理学で人体の構造や名称とその生理機能を学び、生命の維持にどのように関与しているかを理解することと並行して、この講座では皮膚及び皮膚付属器官の構造や生理機能について学ぶ。	人体の構造と機能についての知識を修得することを目標とする。
化学	化粧品を安全に使用するためには、化学物質についての基礎知識が必要である。この講義では、化学分野の中でも特に美容知識習得に必要な分野について学習する。	化粧品の化学物質の基礎知識を身につける
美容文化理論Ⅰ	美容技術には常にその技術を施す裏付けがあり、その意義を理解しておかなければ更に高度な技術には対応できない。日々移り変わる美容技術についても対応できるよう、将来、美容を生業とする者が知っておかなければならない技術に関する知識や理論を学ぶ。	美容師が取り扱う化粧品類及び医薬部外品に関する知識と基礎的な美容技術に関する理論の理解。
美容文化実習Ⅰ	頭髮美粧の基礎的知識と技術を修得していく。頭髮のカット、ワインディング、作品制作等を通して、基礎的なヘアスタイルの構成要素と技術ポイントを把握し、より正確に素早い施術を目指す。	美容師として必要な基礎技術の修得。
美容文化実習Ⅲ	美容師を志す者として、美容サロンで展開している主要技術であるシャンプー技術・ヘアカット技術等、将来サロンに従事した際に役立つ実践的技術の修得。	基礎的なものから応用的なものまで幅広く対応し、将来のサロン営業に貢献できる人材の育成。
和装着付け	和装着付けの歴史、種類等の基礎知識からトータルに和装着付け技術を学ぶ。色々な帯の結び方から着物の模様、半襟や帯の種類、帯締、帯上げ等の色彩の調和を考えた総合的な美しさをより一層引き立てるための技術を修得する	和装着付け技術と知識の全般的な理解と基礎技術の修得を目指す。